

X 障害者手帳保有者の生活状況

本章では、障害者手帳（身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳）を持つ18歳以上の人の生活状況を、障害者手帳を持たない人と比較しながら概観する。障害に関する質問の仕方には様々なものがあり、それにより障害者とされる人の範囲も変わってくるが、本章では、日本の障害者施策の主な対象者層である障害者手帳保有者の生活状況を見ていく。

本調査では、18歳以上の世帯内の個人を対象とする個人票の問10において、障害者手帳の有無に関する質問を設けた。選択肢は、「どれも持っていない」「身体障害者手帳1・2級」「身体障害者手帳3～6級」「療育手帳重度（A、A1・A2・A3、1度・2度など）」「療育手帳その他（B・C、B1・B2、3度・4度など）」「精神障害者保健福祉手帳（1級）」「精神障害者保健福祉手帳（2・3級）」であり、複数選択とした。集計上は、いずれかの障害者手帳を保有している場合に障害者手帳ありとし、「どれも持っていない」を含め、いずれの選択肢も選択していない場合に、障害者手帳の有無を無回答とした。

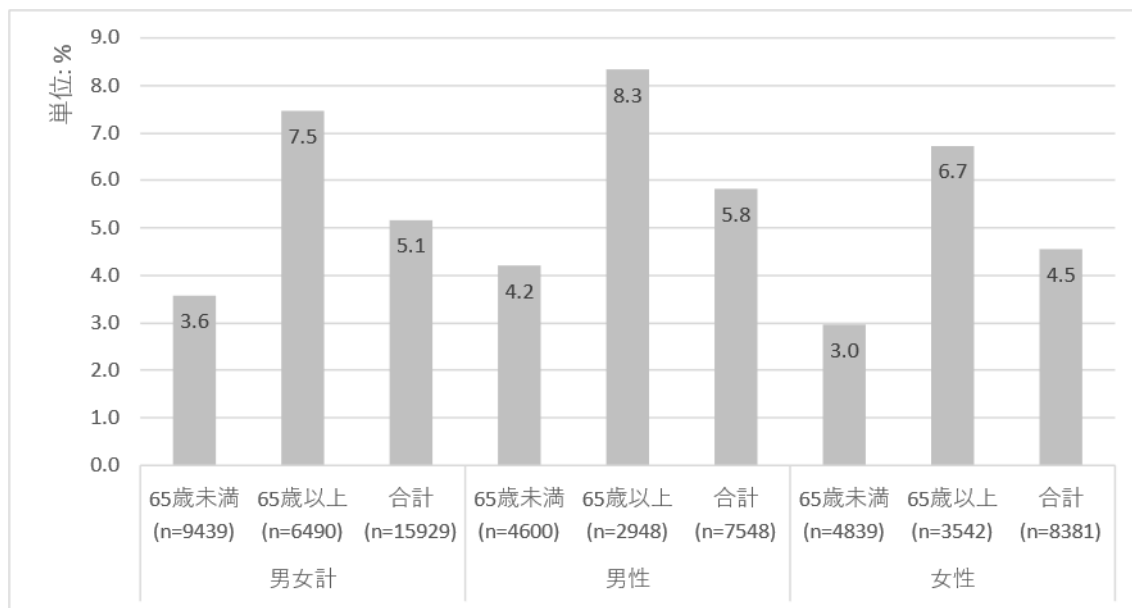
また本調査では、障害者手帳保有者を対象として、次のような質問で、障害を有するに至った年齢（以下、受障年齢と表記）を聞いた。「いつごろから障害をお持ちですか ※障害者手帳の取得前も含みます。障害がだんだん始まった方は、生活に影響し始めた時を、障害を複数お持ちの方は、一番早い時点をお答えください」という質問文を用いた。選択肢は、「生まれつき」「17歳以前」「18歳～39歳」「40歳～64歳」「65歳以降」「わからない」であり、単一選択とした。先天性障害の場合の回答しやすさを考慮して、「生まれつき」と「17歳以前」は分かれているが、児童期の受障という観点から、本章の集計では、両者を統合して「17歳以前」としている。本章では、受障年齢との関連が予想された教育、親との別居経験、子どもの有無について、受障年齢区分ごとの集計を示している。

以下では、障害者手帳有無（手帳の種別・等級を統合した）と受障年齢区分に即して、障害者手帳保有者（ここでは所持という言葉は使わず、障害者手帳保有者・障害者手帳非保有者という言葉で統一する）の生活状況を見ていく。

1 性別・年齢

図表 X-1 は、性別・年齢区分ごとに見た障害者手帳保有割合である。18 歳以上の障害者手帳保有者割合は、無回答を分母に入れて、5.1%であった。65 歳未満では 3.6%、65 歳以上では 7.5%と、高齢者で障害者手帳保有割合が高かった。性別に関しては、男性で 5.8%、女性で 4.5%となり、男性の方が高い割合となった。

図表 X-1 性・年齢大区分別 障害者手帳の有無

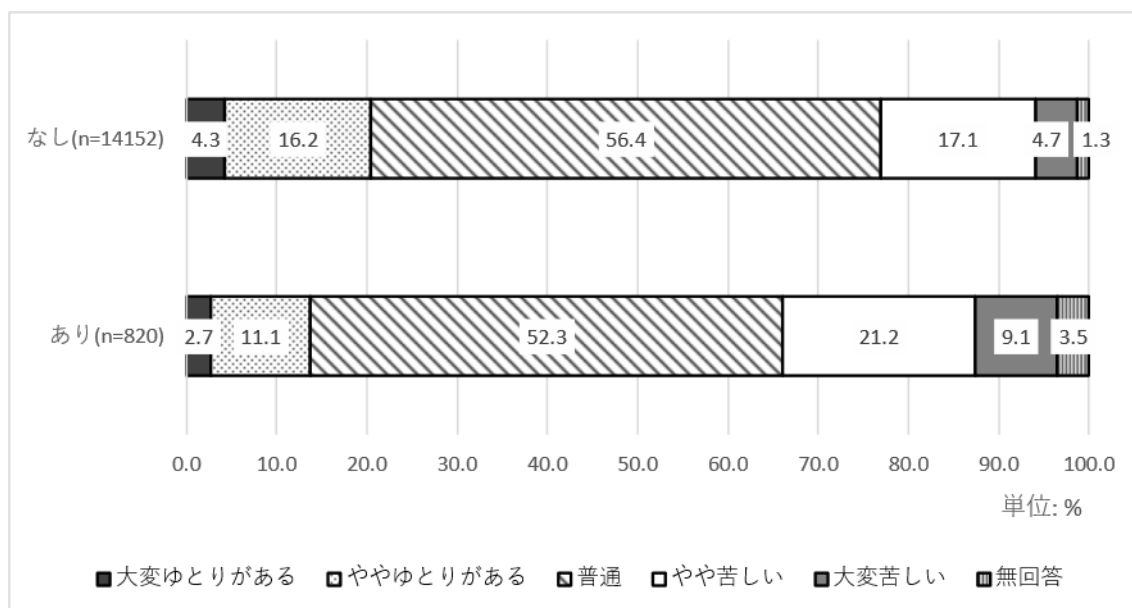


注) 個人票により集計している。割合は分母に無回答を含む。

2 暮らし向き

障害者手帳保有者と非保有者が現在の暮らし向きをどう評価しているかを示したのが図表 X-2 である(障害者手帳の有無が無回答の人を除く)。現在の暮らし向きが「大変苦しい」または「やや苦しい」と答えた者の割合は、障害者手帳保有者で 30.4%、非保有者では 21.8%であり、障害者手帳保有者で高かった。他方、「大変ゆとりがある」または「ややゆとりがある」と答えた者の割合は、障害者手帳保有者で 13.8%、非保有者では 20.5%であり、障害者手帳保有者で低かった。

図表 X-2 障害者手帳の有無別 現在の暮らし向き



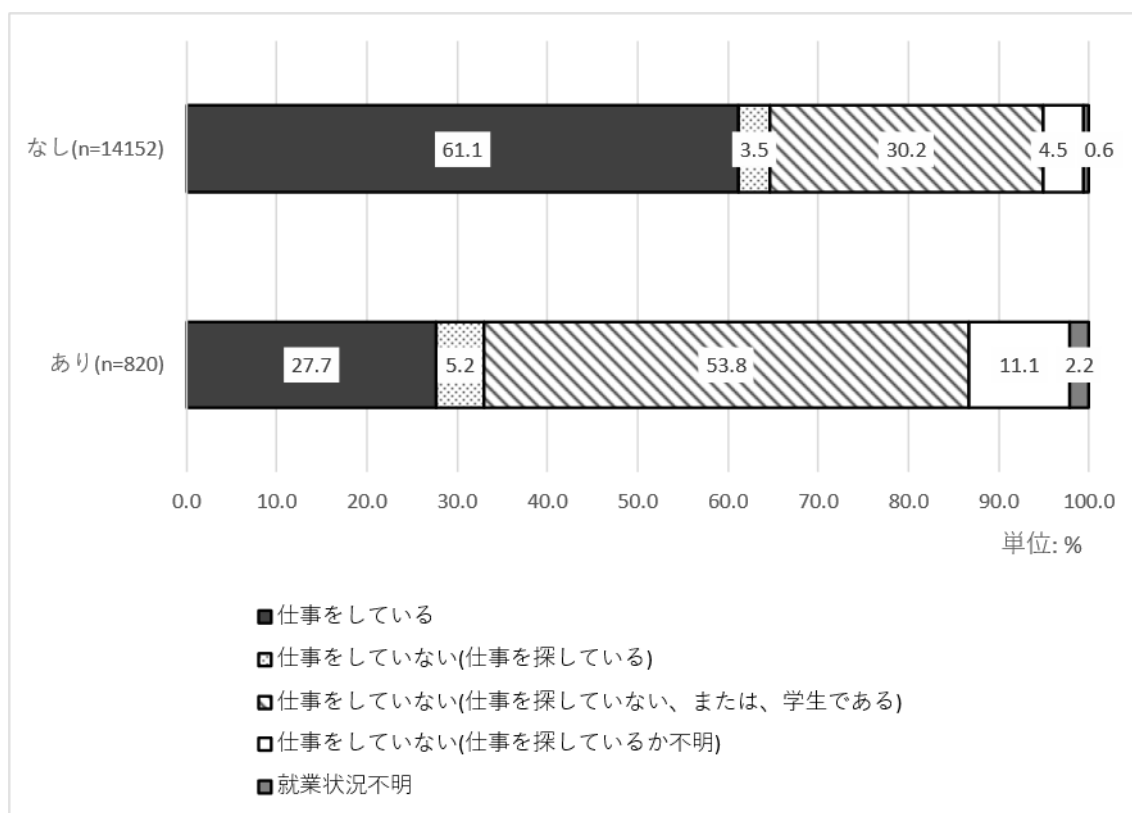
注:) 個人票により集計している。障害者手帳有無が無回答の人は示していない。

3 経済状況

(1) 就業状況

障害者手帳保有者と非保有者の就業状況を示したのが図表 X-3 である(障害者手帳の有無が無回答の人を除く。以下、障害者手帳保有者と非保有者の全体的な年齢差に留意が必要である)。仕事を探している者の割合は、障害者手帳保有者で 5.2%、非保有者で 3.5%であり、障害者手帳保有者で高くなっていた。仕事をしている者の割合は、障害者手帳保有者では 27.7%、非保有者では 61.1%であり、障害者手帳保有者で低い割合となっていた。

図表 X-3 障害者手帳の有無別 現在の就業状況

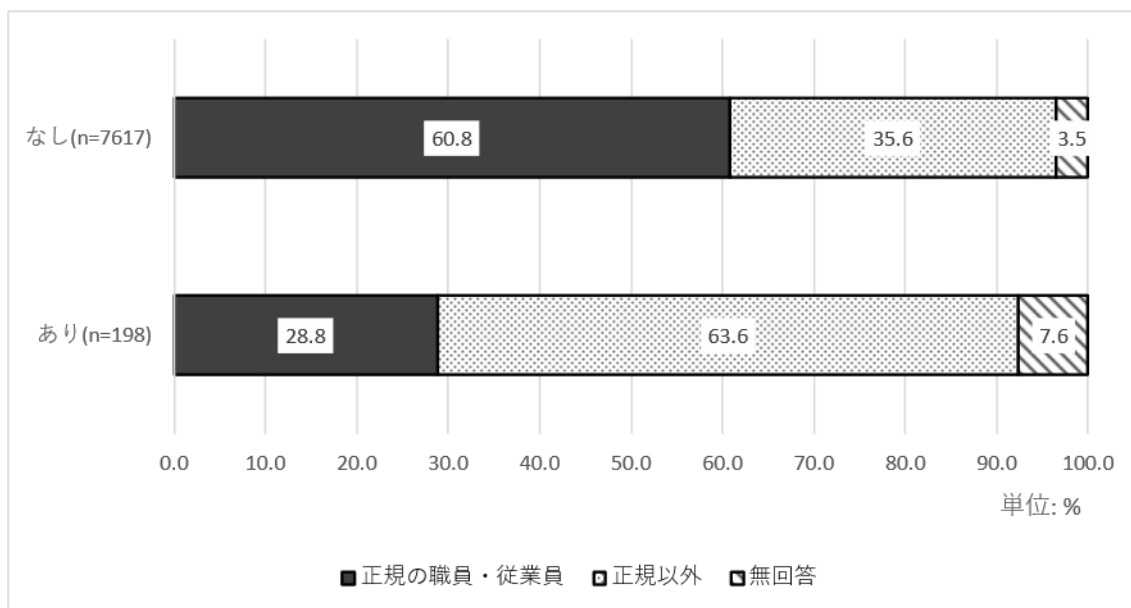


注) 個人票により集計している。障害者手帳有無が無回答の人は示していない。

(2) 勤め先での呼称（正規かそれ以外か）

仕事をしている者について、勤め先での呼称に基づき、正規・パート・契約社員などの雇用形態を集計したのが図表 X-4 である（非該当すなわち仕事をしていない者、勤めか自営かの別が自営業・家族従業者・内職の者、不詳および障害者手帳有無の無回答を除く）。正規の職員・従業員である者は、障害者手帳保有者では 28.8%、非保有者では 60.8%であり、障害者手帳保有者で割合が低くなっていた。

図表 X-4 障害者手帳の有無別 現在の仕事の状況



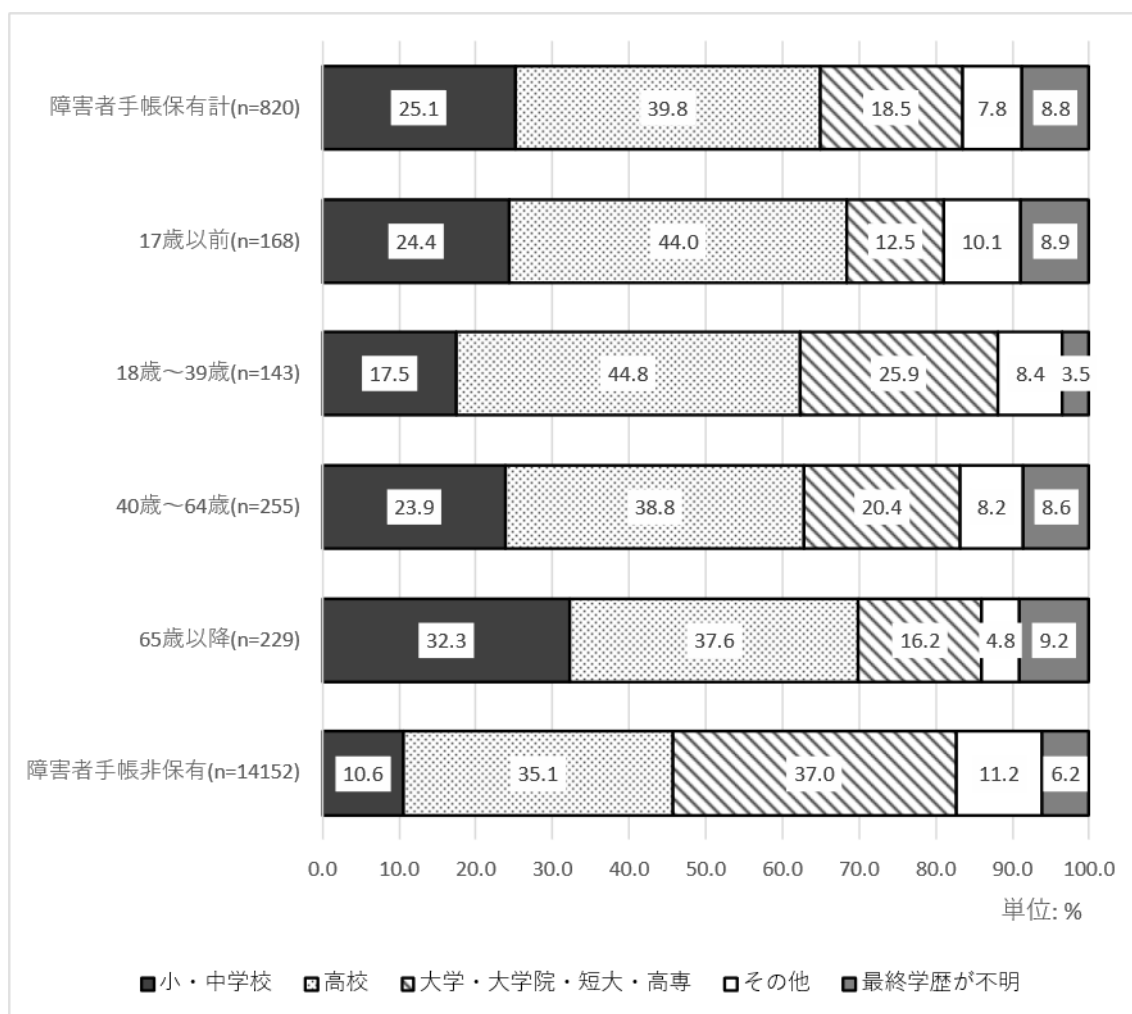
注) 個人票により集計している。障害者手帳有無が無回答の人は示していない。仕事をしていない、または仕事をしているか不明の回答、および勤めか自営かの別が自営業、家族従業者、内職の者は除外している。

4 教育

受障年齢の区分ごとに、最後に卒業した学校を表したのが図表 X-5 である（受障年齢が無回答・不詳、「わからない」とした者を除く）。なお、受障年齢が高い層は、現在の年齢も高い世代である点に留意が必要である。

高等教育（高専・短大・大学・大学院）卒業者の割合は、障害者手帳保有者全体で 18.5%であった。受障年齢別に見ると、「17 歳以前」（生まれつきを含む）の者で 12.5%、「18 歳～39 歳」で 25.9%、「40 歳～64 歳」で 20.4%、「65 歳以降」で 16.2%であり、障害者手帳非保有者の 37.0%に対して低くなっていた。

図表 X-5 受障年齢階級別 最後に卒業した学校



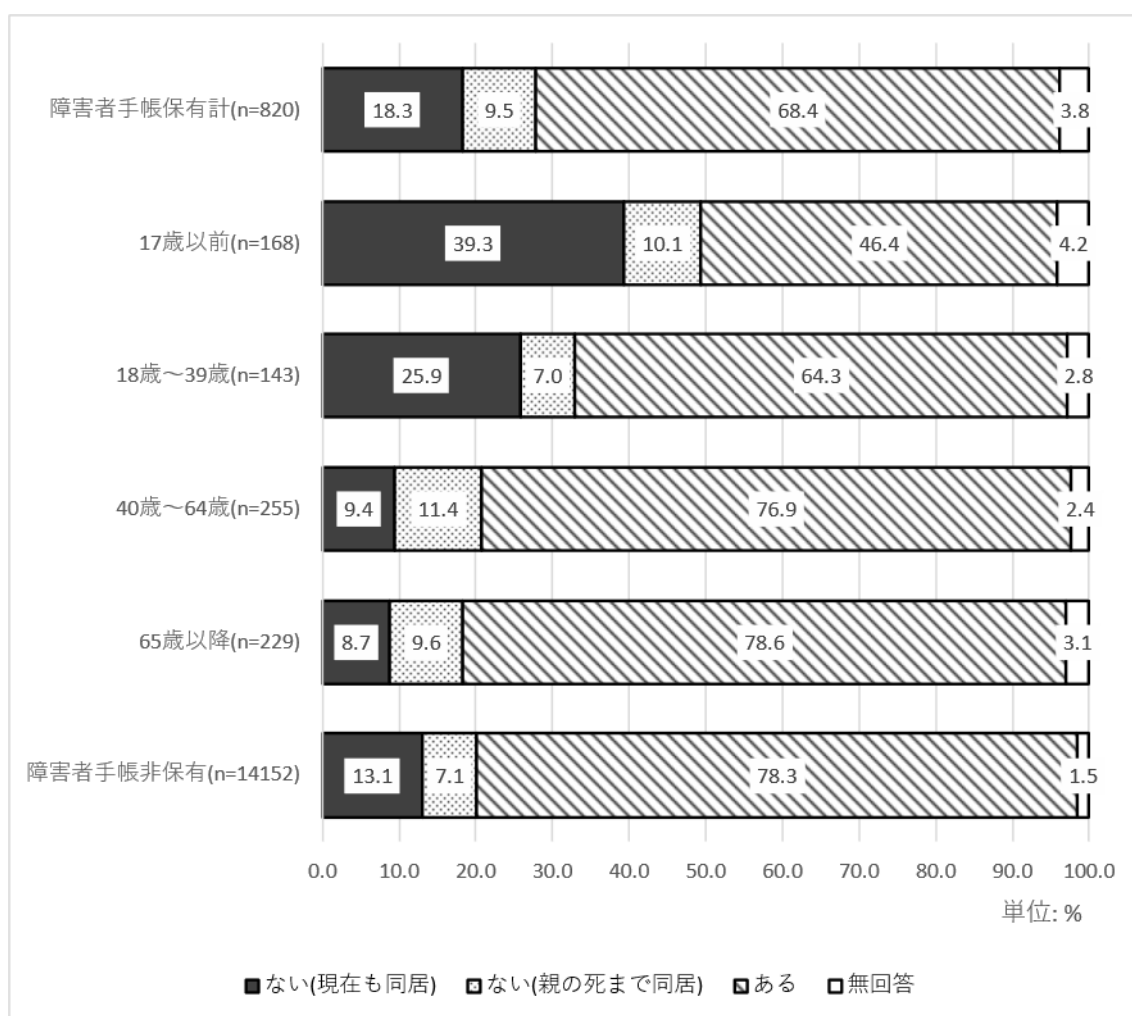
注) 個人票により集計している。受障年齢が無回答・不詳ないし「わからない」とした人は示していない。

5 家族

(1) 親から離れて暮らした経験

図表 X-6 は、親から離れて暮らした経験の有無を受障年齢の区分ごとに集計したものである（受障年齢が無回答・不詳、「わからない」とした者を除く）。親から離れて暮らした経験がある割合は、障害者手帳保有者全体で 68.4%であった。受障年齢別に見ると、「17 歳以前」（生まれつきを含む）で 46.4%、「18 歳～39 歳」で 64.3%であり、障害者手帳非保有者の 78.3%に比べ低くなっていた。受障年齢が「40 歳～64 歳」では 76.9%、「65 歳以降」では 78.6%であり、障害者手帳非保有者とほぼ同水準であった。

図表 X-6 受障年齢階級別 親との別居経験

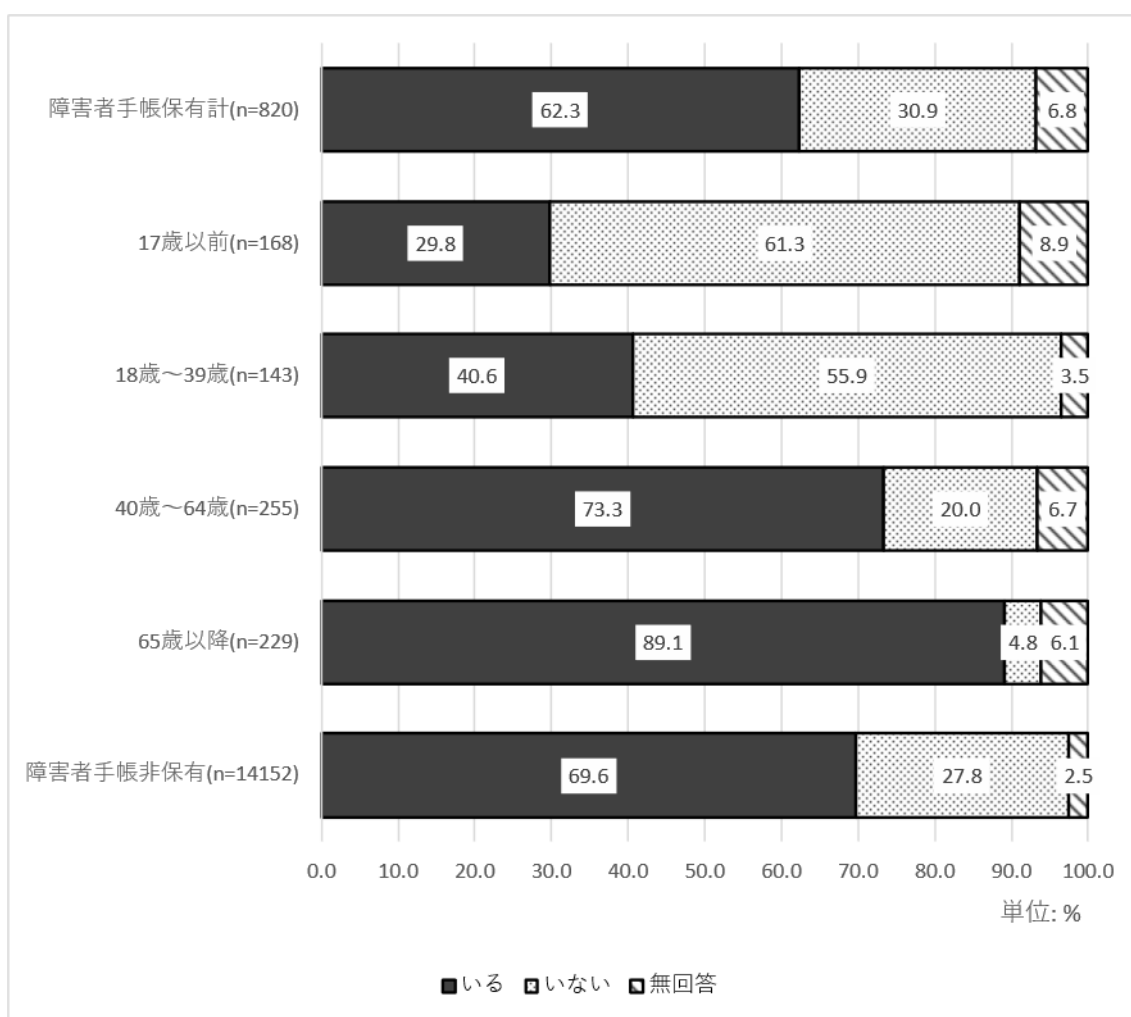


注) 個人票により集計している。受障年齢が無回答・不詳ないし「わからない」とした人は示していない。

(2) 子どもの有無

図表 X-7 は、子どもの有無（同別居を問わない）を、受障年齢の区分ごとに見たものである（受障年齢が無回答・不詳、「わからない」とした者を除く）。子どもがいる割合は、障害者手帳保有者全体では 62.3%であった。受障年齢が「17 歳以前」（生まれつきを含む）で 29.8%、「18 歳～39 歳」で 40.6%であり、障害者手帳非保有者の 69.6%に比べ低くなっていた。受障年齢が「40 歳～64 歳」では 73.3%、「65 歳以降」では 89.1%であり、障害者手帳非保有者全体の平均(69.6%)以上の水準であった。

図表 X-7 受障年齢階級別 子どもの有無



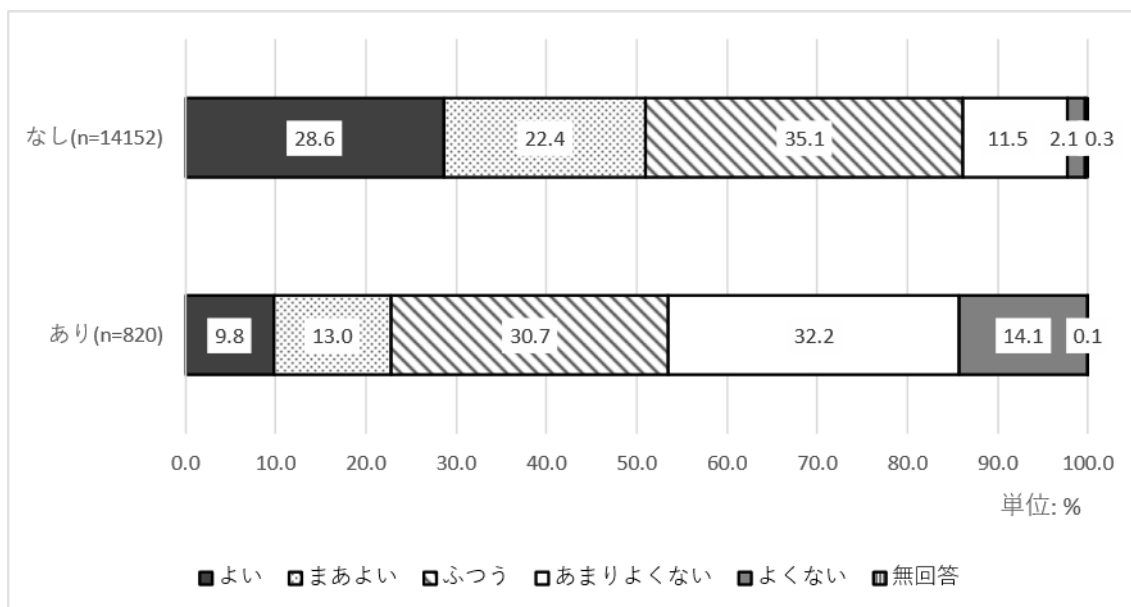
注) 個人票により集計している。受障年齢が無回答・不詳ないし「わからない」とした人は示していない。

6 健康

(1) 主観的健康感

健康について、回答者の主観的評価により、「よい」「まあよい」「ふつう」「あまりよくない」「よくない」のいずれかを選択してもらった。障害者手帳保有者と非保有者の健康感を示したのが図表 X-8 である（障害者手帳の有無の無回答を除く）。健康状態が「よい」「まあよい」という回答の割合は、障害者手帳保有者で 22.8%、非保有者で 51.0%であり、障害者手帳保有者で低くなっていた。反対に、「あまりよくない」「よくない」という回答の割合は、障害者手帳保有者で 46.3%、非保有者で 13.5%であり、障害者手帳保有者で高くなっていた。

図表 X-8 障害者手帳の有無別 主観的健康感

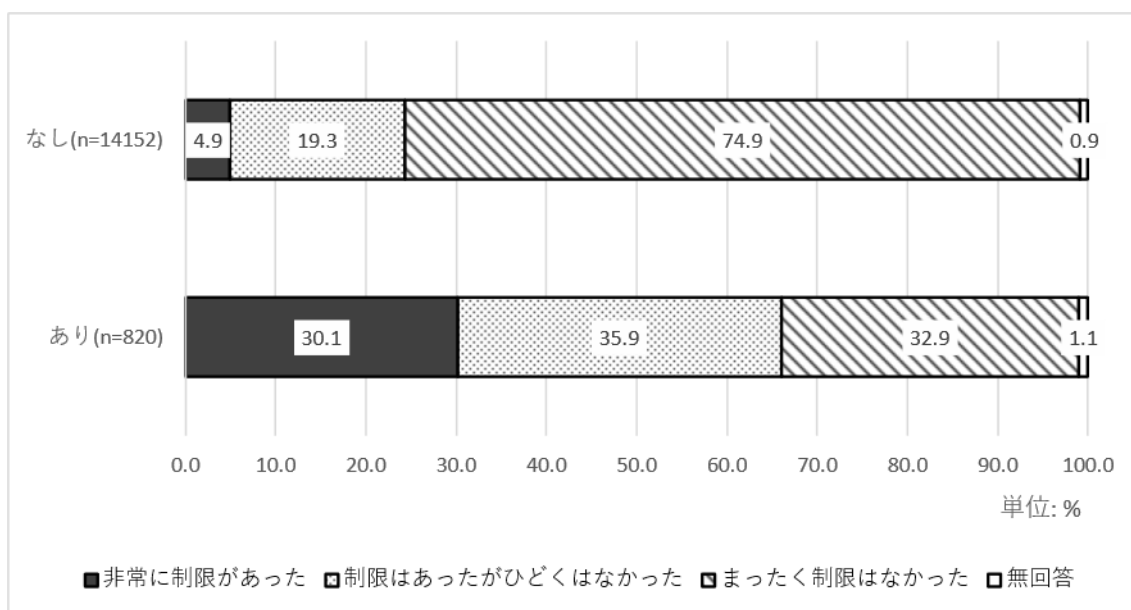


注) 個人票により集計している。障害者手帳有無が無回答の人は示していない。

(2) 健康上の問題による活動制限

周りの人が通常行っているような活動について、健康上の問題による制限が過去6か月以上あったかどうかを質問した。選択肢は「非常に制限があった」「制限はあったがひどくはなかった」「まったく制限はなかった」であった。図表 X-9 は、障害者手帳保有者と非保有者の回答状況である（障害者手帳有無の無回答を除く）。「非常に制限があった」「制限はあったがひどくはなかった」という回答の割合は、障害者手帳保有者で 66.0%、非保有者で 24.3%であり、障害者手帳保有者で高くなっていた。他方で、障害者手帳保有者においても、「まったく制限はなかった」という回答が 32.9%見られた。

図表 X-9 障害者手帳の有無別 健康上の問題による活動制限



注) 個人票により集計している。障害者手帳有無が無回答の人は示していない。

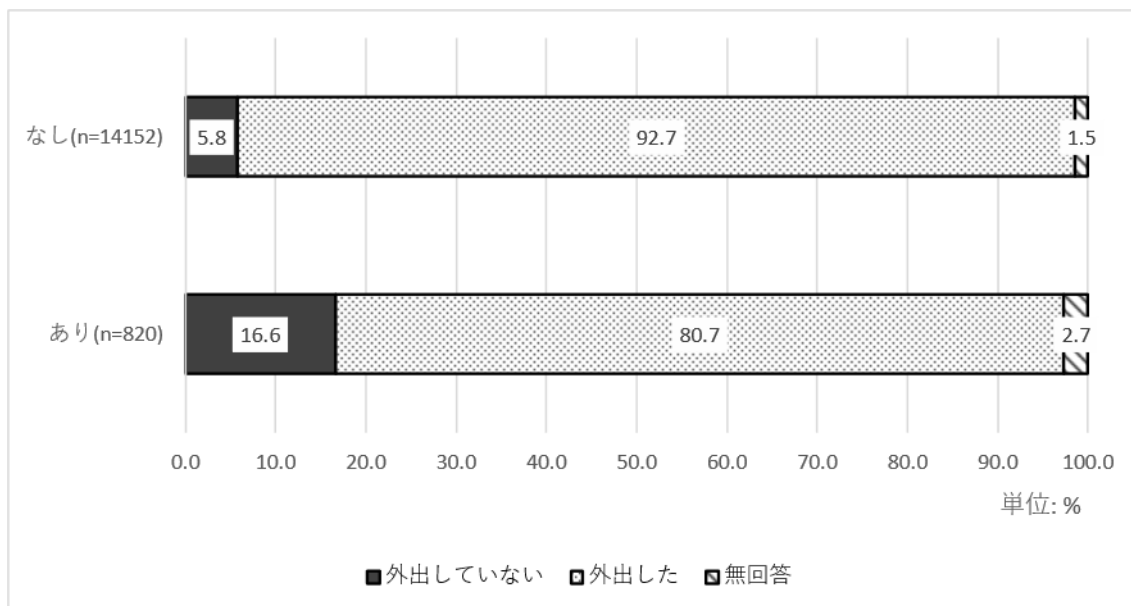
7 外出

図表 X-10・図表 X-11 は、調査基準日前週一週間ににおける外出の有無と日数である（障害者手帳有無の無回答を除く）。外出の目的を限定しないことを明示するため、質問文は「先週、あなたは何日外出しましたか。仕事や外食、買い物や遊びなどを含めて、ご自宅の外に出かけた日数をお答えください」とした。まず、外出したかしていないかを選択してもらい、外出したと回答した場合、日数を数値で記入してもらった。

調査期日前の一週間に外出していないと回答した割合は、障害者手帳保有者で 16.6%、非保有者で 5.8%であり、障害者手帳保有者で高くなっていた。外出日数 0 日（外出していない）と 1 日を合わせた割合は、障害者手帳保有者で 26.1%、非保有者で 11.6%であり、障害者手帳保有者で高くなっていた（分母に外出日数の不詳、すなわち外出有無の無回答は含まない）。他方、外出日数 6 日と 7 日を合わせると、障害者手帳保有者で 25.1%、非保有者で 51.3%であり（分母に外出日数の不詳は含まない）、障害者手帳保有者で低くなっていた。

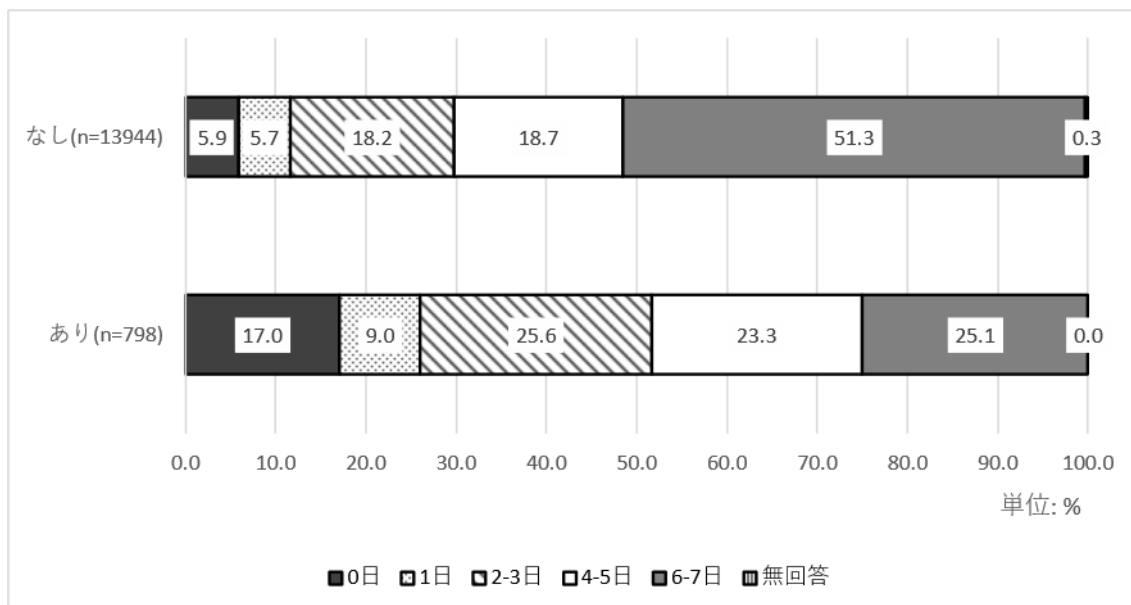
なお、図表 X-12 図表 X-13 は、障害者手帳保有者・非保有者を含めた外出日数である。18 歳以上のすべての回答者の平均を見ると、調査期日前の一週間に外出していないと回答した者の割合は 6.5%であり、70 歳代で 7.4%、80 歳以上で 17.7%と高い年齢層で割合が大きくなっていた。外出日数 1 日以下の者は、18 歳以上の平均で 12.7%、70 歳代で 14.1%、80 歳以上で 30.3%であった（分母に外出日数の不詳は含まない）。

図表 X-10 障害者手帳の有無別 先週の外出状況



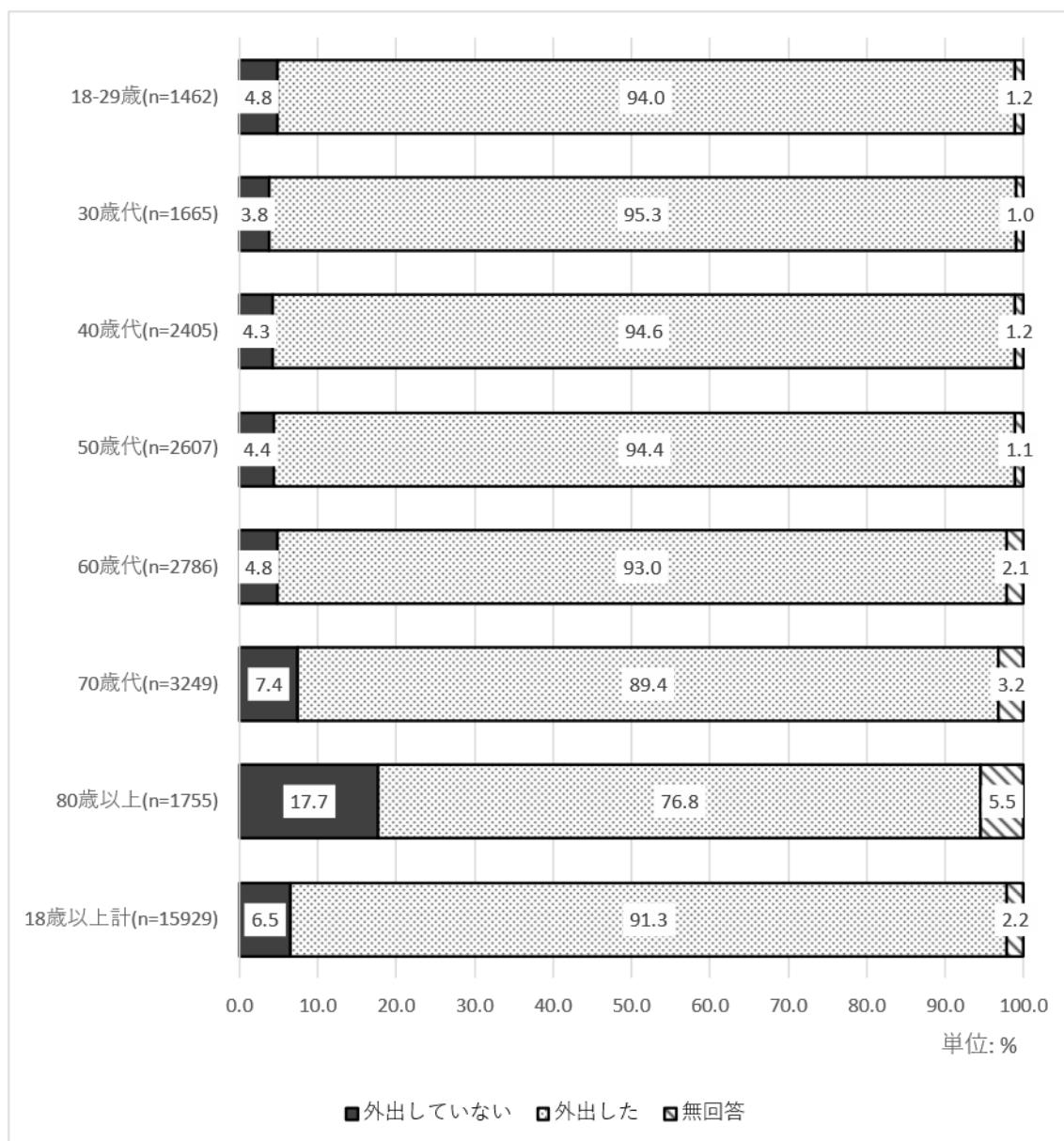
注) 個人票により集計している。障害者手帳有無が無回答の人は示していない。

図表 X-11 障害者手帳の有無別 先週の外出日数



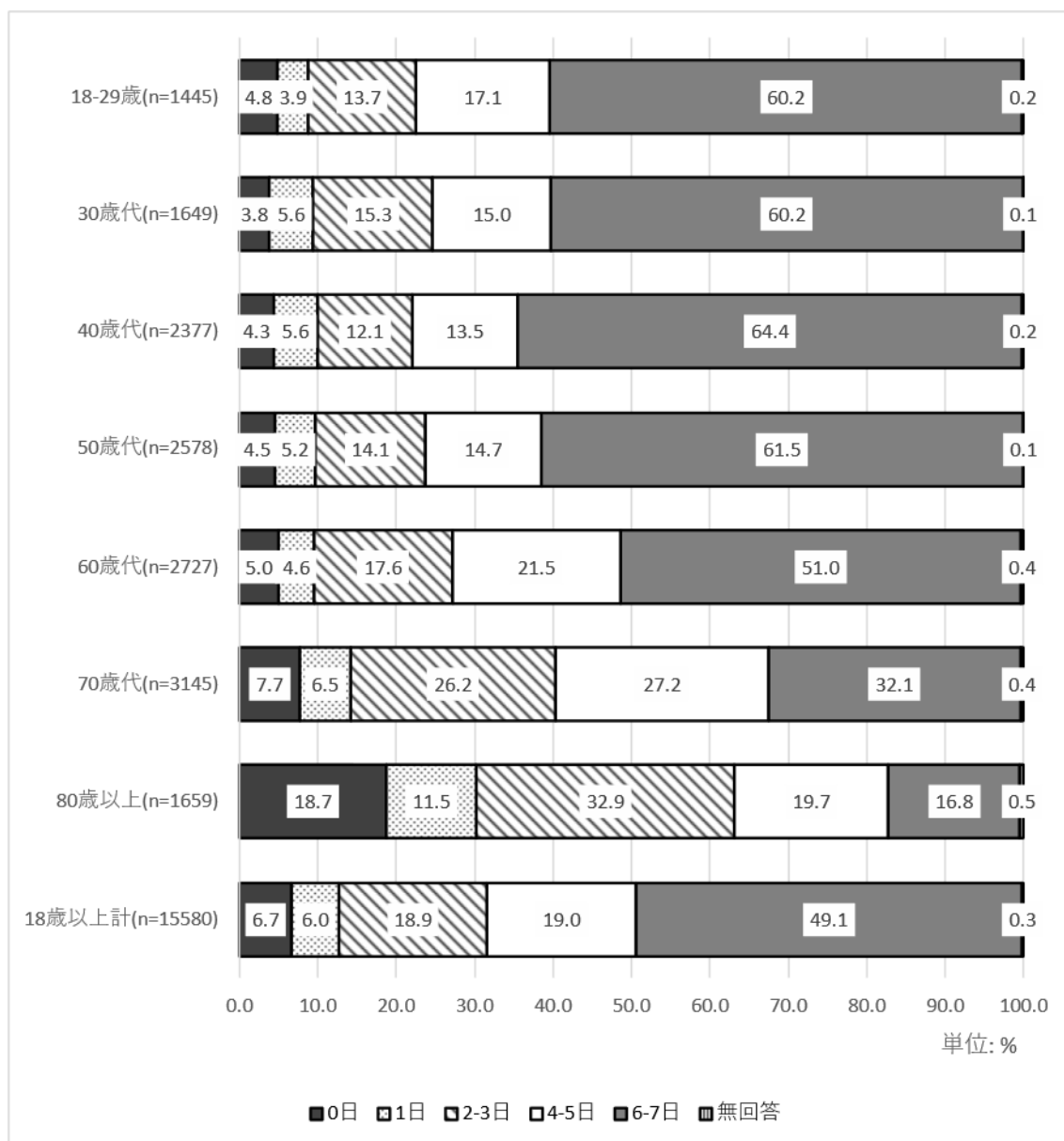
注) 個人票により集計している。障害者手帳有無が無回答の人は示していない。外出有無の無回答(外出日数の不詳)を除いているため、前の図とは分母となる人数(n)や割合が異なっている。外出していない人は0日とした。

図表 X-12 年齢階級別 先週の外出状況



注) 個人票により集計している。障害者手帳有無にかかわらず対象に含めている。男女計のみ掲載している。

図表 X-13 年齢階級別 先週の外出日数



注) 個人票により集計している。障害者手帳有無にかかわらず対象に含めている。外出有無の無回答(外出日数の不詳)を除いているため、前の図とは、分母となる人数(n)や割合が異なっている。外出していない人は0日とした。男女計のみ掲載している。